

令和6年度 大田区立南六郷中学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月1日

■生徒数:546名 学級数:16学級(第1学年:6学級 第2学年:5学級 第3学年:5学級) 教員数:28名
 「今年度の重点目標と方策」
 ◎3年間を見通した系統的な指導の推進
 (1)基礎学力の定着と学力向上、規則正しい生活習慣が身に付く学校を目指す。(2)生徒一人一人が活躍できる学校を目指す。(3)地域社会に貢献できる生徒を育てる学校を目指す。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 成来し 社会 をな 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「自ら進んで授業に参加したり、仲間と協力して学習に取り組んだりすることができている」「運動会やぶどう祭などの学校行事は、楽しく充実したものになっている」「タブレットなど、ICT機器を効果的に活用した授業が進められている」「学校は、地域の力(保護者以外)を子どもたちの教育に活かしている」「学校行事や部活動、委員会などを通して、生徒一人一人が活躍できる教育活動が進められている」のアンケートの肯定的な回答	4: 80%以上	・生徒が主体的に活動できる授業を目指し、授業改善を行ってゆく。 ・タブレットの活用については、必要な場面にタイミングよく行えるようにする。 ・地域の力を活かす教育については、コミュニティスクールを念頭に入れ検討してゆく。 ・学校行事や部活動、委員会など生徒が活躍できる場面を作り続ける。	A	2	・今後社会に出て必要だということをわからせる教育をするのはどうでしょうか？ ・関連するアンケート項目について、保護者のICTに関わる項目以外は「そう思う」「ややそう思う」の割合が80%を超えているので、現在の取組をさらに推進していくことが大切だと考えます。 ・運動会を見学していても懸命に取り組んでおり活躍しようとみんな頑張っている。一部の生徒がふざけることがあるが、目立ちたいだけなのか、集中できないのかと思います。 ・部活動も活躍しており、充実した学校生活を送ってほしいです。 ・生徒の扱い方の問題もあり、タブレットの十分な活用が図れていないように感じている。おた教育ビジョンの中でも、情報活用能力の育成の観点からタブレット端末の活用が示されており、あらためて安全に活用できる環境を検討していただきたい。また、コミュニティスクールについては保護者に対して理解を促す取り組みが必要であると考える。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが 人材 国を際 育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「相手を尊重し、思いやりの心を持ち、学校生活を送っている」「自分には良いところがある」「キャリアパスポートを生かし、キャリア教育がアンケートに肯定的な回答	4: 80%以上	・「特別な教科道徳」を軸に、人権意識を高め、生徒の心を豊かにする教育を継続する。 ・生徒をほめる機会を増やし、生徒の自己肯定感を高める。 ・キャリア教育について、保護者へのアナウンスを十分に行えるよう努める。	A	2	・ほめる教育や自己肯定感を高めることは必要だと思います。ただ、注意しなくてはいけないことはきちんと注意も必要だと共に思います。 ・関連する生徒の「そう思う」「ややそう思う」の割合が95%を超えていることは大きな成果と考えます。 ・キャリア教育については改善策にもあるように、保護者への伝え方が重要であるとを考えます。 ・ボランティア活動を増やして「ありがとう」の言葉をもらい、誰かのために役に立ったという達成感により、思いやりの心を持ち、気持ちも優しくなれると思う。ほめる機会も増えたと考えます。 ・教科道徳を一言では表せないが、礼儀が基本であり当校は問題なく進展している。 ・自己肯定感はあるままの自分とあるが、せめて明日への目標と希望を抱く方向性を望みたい。 ・昨年、道徳の授業を拝見したがややテーマが難しく、生徒の心の豊かさに直接つながりにくいのではないかと感じた。生徒たちの身近な事例から、尊重や思いやりの心の醸成を図っていただきたい。また、改善策として書かれている通り、キャリア教育についてはアンケート結果からも保護者理解が大切と考えます。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
た一個 め人目 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「きちんとあいさつができている」「きまりを守ろうとしている」「学校での活動を通じて体力が向上している」「生徒の健康面を配慮した教育活動が進められている」「早寝・早起き・朝ごはんの啓発や、年間を通して体力が向上するよう取り組みを推進している」のアンケートに肯定的な回答	4: 80%以上	・自ら進んであいさつができる生徒を増やす。 ・大半の生徒がきまりを守っている、その意識を継続できるようにする。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」については、各種たよりを活用し、保護者への啓発に取り組む。	A	2	・あいさつができていない子が多い気がします。 ・学校であいさつしても返す生徒が少なく感じた。 ・体力向上、健康面を配慮した教育活動については、生徒・保護者ともに80%以上の肯定的な結果が出ていますが、あいさつやきまりを守る等、生活面の向上については生徒・保護者の結果が大きく乖離していることを課題とすることが必要です。 ・交通安全で朝声掛けすることがあるが、「おはよう」と挨拶すると「おはようございます」と返答してくれることが多くなった。学校へ行っても廊下で「こんにちは」と声掛けしてくれます。挨拶に始まり、挨拶で終わるのが基本です。大人からの声掛けも必要に感じます。 ・時代が違うと言えばそれまでですが、教育意識が家庭・保護者にあるかで異なると感じます。「早寝・早起き・朝ごはん」、当たり前のことができるよう本校も啓発に取り組んでください。 ・今年度1年間の教職員の皆様のご尽力もあり、挨拶をしっかりと出来る生徒や決まりを守る生徒が着実に増えてきているように感じます。本当にありがとうございます。 ・早寝・早起き・朝ごはんについては、保護者の責任であり、引き続きの啓発をお願いします。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
た一個 め人目 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「きちんとあいさつができている」「きまりを守ろうとしている」「学校での活動を通じて体力が向上している」「生徒の健康面を配慮した教育活動が進められている」「早寝・早起き・朝ごはんの啓発や、年間を通して体力が向上するよう取り組みを推進している」のアンケートに肯定的な回答	4: 80%以上	・自ら進んであいさつができる生徒を増やす。 ・大半の生徒がきまりを守っている、その意識を継続できるようにする。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」については、各種たよりを活用し、保護者への啓発に取り組む。	A	2	・あいさつができていない子が多い気がします。 ・学校であいさつしても返す生徒が少なく感じた。 ・体力向上、健康面を配慮した教育活動については、生徒・保護者ともに80%以上の肯定的な結果が出ていますが、あいさつやきまりを守る等、生活面の向上については生徒・保護者の結果が大きく乖離していることを課題とすることが必要です。 ・交通安全で朝声掛けすることがあるが、「おはよう」と挨拶すると「おはようございます」と返答してくれることが多くなった。学校へ行っても廊下で「こんにちは」と声掛けしてくれます。挨拶に始まり、挨拶で終わるのが基本です。大人からの声掛けも必要に感じます。 ・時代が違うと言えばそれまでですが、教育意識が家庭・保護者にあるかで異なると感じます。「早寝・早起き・朝ごはん」、当たり前のことができるよう本校も啓発に取り組んでください。 ・今年度1年間の教職員の皆様のご尽力もあり、挨拶をしっかりと出来る生徒や決まりを守る生徒が着実に増えてきているように感じます。本当にありがとうございます。 ・早寝・早起き・朝ごはんについては、保護者の責任であり、引き続きの啓発をお願いします。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				
た一個 め人目 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 る性 力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「きちんとあいさつができている」「きまりを守ろうとしている」「学校での活動を通じて体力が向上している」「生徒の健康面を配慮した教育活動が進められている」「早寝・早起き・朝ごはんの啓発や、年間を通して体力が向上するよう取り組みを推進している」のアンケートに肯定的な回答	4: 80%以上	・自ら進んであいさつができる生徒を増やす。 ・大半の生徒がきまりを守っている、その意識を継続できるようにする。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」については、各種たよりを活用し、保護者への啓発に取り組む。	A	2	・あいさつができていない子が多い気がします。 ・学校であいさつしても返す生徒が少なく感じた。 ・体力向上、健康面を配慮した教育活動については、生徒・保護者ともに80%以上の肯定的な結果が出ていますが、あいさつやきまりを守る等、生活面の向上については生徒・保護者の結果が大きく乖離していることを課題とすることが必要です。 ・交通安全で朝声掛けすることがあるが、「おはよう」と挨拶すると「おはようございます」と返答してくれることが多くなった。学校へ行っても廊下で「こんにちは」と声掛けしてくれます。挨拶に始まり、挨拶で終わるのが基本です。大人からの声掛けも必要に感じます。 ・時代が違うと言えばそれまでですが、教育意識が家庭・保護者にあるかで異なると感じます。「早寝・早起き・朝ごはん」、当たり前のことができるよう本校も啓発に取り組んでください。 ・今年度1年間の教職員の皆様のご尽力もあり、挨拶をしっかりと出来る生徒や決まりを守る生徒が着実に増えてきているように感じます。本当にありがとうございます。 ・早寝・早起き・朝ごはんについては、保護者の責任であり、引き続きの啓発をお願いします。
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 70%以上				
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 60%以上				
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			1: 60%未満				

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「授業は楽しく、わかりやすい」「授業は生徒にとってわかりやすい」「タブレットなど、ICT機器を効果的に活用した授業が進められている」のアンケートに肯定的な回答	4:80%以上	3 ・生徒が進んで授業に参加し、「楽しい」と思えるよう、個別最適化と協働的な学びをキーワードとし、授業改善を図る。 ・生徒への授業アンケートを行うとともに、授業参観週間で保護者や地域の方に意見をいただく。	A	2	・両アンケート項目ともに生徒・保護者から肯定的な回答を得ているので、さらに「そう思う」の回答の割合を増やせるように授業改善を推進していくことを期待します。 ・教員が少し元気がない気がした。楽しいと思える教育ができるには、教員が楽しく疲れないようにする。 ・授業を参観しますと先生方は非常に頑張っておられると思います。しかし中には大人でも眠くなってしまいう授業をしている方もいます。授業の進め方についてもご指導していただけたらありがたいです。 ・学習レベルや理解力は一人一人差があるので、進める子には発展的な課題を与えると良いと思います。 ・授業妨害をする生徒も減少し、日頃からの指導の効果がでてきていると感じています。残念ながら授業参観に来ていない保護者も多くの授業への理解が少ない状況であるのではないかと感じています。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:70%以上				
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上				
						1:60%未満				
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「何でも話せる友だちがいる」「生徒や保護者が気軽に相談できる体制が整っている。(教員、スクールカウンセラーなど)」「サポートルームの充実を図り、特別支援教育を推進している」のアンケートに肯定的な回答	4:80%以上	3 ・生徒に寄り添った姿勢を今後も大切に、いつでも相談しやすい体制をつくる。 また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについて保護者にわかりやすく伝えるようにする。 ・次年度サポートルームの拠点になることから、特別支援教育を充実させるべく計画を立てる。	A	3	・何でも話せる友だちがいるのはとてもいいと思います。 ・「何でも話せる友だちがいる」「そう思う」「ややそう思う」の割合が90%を超えているのは素晴らしいことです。この結果が保護者アンケートの数値向上につながることを期待します。 ・友達がいる、いないでは大切な学生生活に影響してきます。気軽に話せる体制については大変心強いです。やんちゃな生徒には生徒の言い分があるかも知れませんが、時間はないかと思いますが、聞く体制も欲しいと思います。 ・スクールソーシャルワーカーの本来の役割をうまく活用できないように感じます。家庭環境へのアプローチや課題解決に向けたソーシャルワークなど、更なる活用をお願いします。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:70%以上				
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:60%以上				
						1:60%未満				
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 的 境 を 学 つ 習 く 空 間 と 安 全	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「防災について、普段から家族で話し合っている」「学校からのたより(学校だより、学年だより、保健だよりなど)を読んでいる」「保護者に学校だよりや学年だより、学校HPや緊急連絡システム等で学校の様子を伝えてくれる」「防災について、普段から家族で話し合っている」のアンケートの肯定的な回答	4:80%以上	1 ・「安心・安全」をキーワードとした学校づくりを継続する。 ・避難訓練を定期的実施し、防災意識を高める。 ・学校HPや緊急連絡システム、まなびポケット保護者連絡機能を活用し、保護者や地域に学校情報の伝達を継続する。	A	3	・防災について親が話してもそこまで子どもが聞いていないのではないのでしょうか？ ・家庭に1冊あると思いますが、防災ハザードマップを使った話し合いをしても良いのかなと思います。 ・避難訓練は定期的実施していると思うので、形骸化しないことが必要と考えます。また、「安心・安全」についても継続するだけでなく、同項目について校区内の小学校での成果と課題を把握しながら、改善を図ることも方策の一つと考えます。 ・自分の住んでいる場所によって緊急避難場所が違いますが、それを保護者さえ認知してないと思います。南中は広い範囲の学区域であるので、まず各家庭の避難場所の確認をすることによって防災についての会話をすると思うのできっかけが必要になる。 ・防災意識は向上しているの、それに加え自らを守り、次に弱者や周辺の方々の手を差し伸べる心を持たせたい。 ・一部の生徒の問題で、他の多くの生徒が挨拶ができない、言葉遣いが悪い等の評価をさせてしまうことは残念です。学校の安心、安全のために教職員の皆さんが尽力されていることは十分理解しております。
		③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:70%以上				
						2:60%以上				
						1:60%未満				
学 地 学 個 校 域 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 サ イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「PTA活動は充実している」「学校は地域の方(保護者以外)を子どもたちの教育に活かしている」のアンケートの肯定的な回答	4:80%以上	2 ・コミュニティースクール発足に向け、PTA役員や地域の方々とのつながりを大切に、南六郷中の特色を生かしたコミュニティースクール作りを検討する。	A	1	・地域と一緒にできることを増やしましょう。 ・もっと保護者に目を向けてもらえるように、PTAも学校に協力していきたい。 ・学校内が困難な状態である時に、PTA・地域の協力を仰ぎながら教職員一同が向き合っている姿は応援したくなります。 ・PTA活動は充実しているの「そう思う」「ややそう思う」の割合が70%を超えていることは、先生方と保護者の皆様が一体感を持ってより良い学校を目指している証と考えます。今後はコミュニティースクールが円滑に発足することを期待します。 ・日本全国でPTA活動についてのあり方が問われている現在になっている。PTAをなくしている地域もある。その中で役員に手をあげてくれる方々に感謝し申し上げます。PTA・地域他多くの方々で見守り、南中をよりよい学校にしていきたい。 ・学校教育をこなしながら、地域との関係性・連帯感を得るには六郷地区の郷土史も有効かもしれません。 ・PTA活動を充実させていくには保護者の皆様の協力をいただき、各委員会活動を再開させていく必要があると考えます。今年度は南中サポーター活動でも、保護者の皆様、地域の皆様にも様々なご協力をいただきました。保護者の皆様にも他人事ではなく、より良い学校づくりに協力をいただきたいと思います。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2		3:70%以上				
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2		2:60%以上				
						1:60%未満				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す